

まほるば



病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

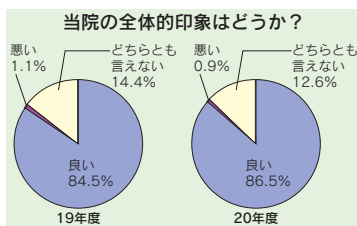
第96号

2009年7月発行

【退院時アンケートから見たこと — 開始から2年半、何がどう変わったか】

患者（家族）様の声を聞いてより良い医療のあり方を考え実行することを目的に、退院時アンケートを開始してから2年半経過しました。そこで当院の医療サービス向上委員会では、平成19年度と20年度の結果を比較することにより、この取り組みで何がどのように変わったか検証しました。

平成19年度（8月を除く）、20年度（7月を除く）の退院者総数はそれぞれ5,122名、4,777名、アンケートに回答した人は1,017名（回収率19.9%）、1,583名（33.1%）で、アンケート回収率が明らかに高まっています。「病院の全体的印象」、「同じ病気の人に当院を勧めるか」への回答を当院に対する総合的評価の指標と考えますと、それぞれ86%以上の方が「良い（は



い）」と回答し、この数値は高くなってきています。これを裏付けるように各職種に対する総合評価も高くなっており、特に食事についての改善が目立ちます。平成20年8月から調査を開始した放射線、臨床検査、リハビリテーションも高い評価を得ています。

当院の医療が患者様にほぼ満足いただいていることは嬉しいことです。しかし、もっと高いところに目標値を設定し、その達成に向けて当院職員が心を一つに様々な課題に取り組むことが大切です。より多くの患者様に満足していただく。それが私達の願いなのであります。医療サービス向上委員会 経営企画室長 佐藤 修一
臨床研究部長 泉井 亮

夜空に咲き競う大輪の華 — 第4回古都ひろさき花火の集い —

今年で4回目を迎えすっかり津軽弘前の初夏の風物詩となった花火大会「古都ひろさき花火の集い」が、6月20日（土）、岩木川河川敷で開催されました。



曇天ではありましたが、青森県内でも最大級の10,000発の花火が惜しげもなく次々と打ち上げられ、咲き競う大輪の華のように夜空に煌めいていました。当日は、市内6ヶ所からシャトルタクシーが運行され、16時からステージアトラクション

（よさこい演舞等）が始まりました。出店も約50店と多く、たくさんのお見物客で賑わう中、19時半打ち揚げ開始。津軽三味線やよさこいと、打ち揚げのタイミングのぴったり合った花火の競演や、全国各地の花火の尺玉競演等、趣向を凝らしたイベントもとても見応えがありました。遙か上空で大きく華開き、きらきらと降り注ぐ尺玉は勿論のこと、りんごやハートの形に広がるデザインの花火にも驚かされました。

今年は、観客の声に応え、花火大会では滅多にない「アンコール」打ち揚げもあり、瞬きする間も惜しい1時間半でした。入院係 工藤 真淑

— 「弘前病院ボランティア研修会」を開催 —

平成21年5月28日・29日の両日、当院のボランティアの方を対象に、①医療倫理～「より良い医療」とは？～を臨床研究部長（医療倫理委員会委員長）の泉井亮先生、②「接遇のこころえ」を看護部長が講演を行いました。

講演①は、医療倫理が重要な理由は、医療は人と人との関係で成り立つもので、この関係の中で行われていることは、生命・人間の尊厳に関わることであるから。そして、社会の中で、人と人がうまく共存するために、人として何が重要かと言えば、倫理に則った行動をすること、すなわち相手を傷つけない、迷惑をかけない、嘘をつかない、約束を守る、常識ある行動をとることであり、誠実であることと、お互いを尊重することにつきるという内容でした。講演②では、相手を尊重した接し方はどのようにあるべきか、特に病院で職員やボランティアの人が気を付けなければならない

いことは何かを具体的な例とともに説明しました。患者様を真ん中に考え、行動することの重要性を理解していただいたと思います。

研修後ボランティアの方からは、「医療倫理について、このように講演を聞けて、あらためて自分の行動を振り返る良い機会をもらえてよかった」、「普段の生活に生かしていけることを学べた」、「医療倫理の意味がわかった」、「患者さんに声をかけるかけ方一つで、患者さんが生きる力を得られたり、損ねたりしてしまうこと、転倒の危険にさらされることもあること」など多くの学びがあり、「このような研修をまたお願いします」と言っていました。

看護部長 高橋 範子



☆ BFH 委員会（赤ちゃんにやさしい病院）報告 ☆

BFH（赤ちゃんにやさしい病院）の認定を受けて今年で3年目になります。

“赤ちゃんにやさしく、お母さんにもやさしく”をモットーに様々なことに取り組んでいます。今回から私たちの取り組みをシリーズで紹介していきたいと思えます。

今回は～妊娠中の取り組み～です。

皆さん助産師外来をご存じですか？毎週木曜日は妊婦健診日ですが、全14回の健診のうち16週、26週、30週、36週の妊婦健診を助産師が担当しています。1人15分～20分と時間の制限はありますが1対1でお話を聞き、その妊婦さんに添った指導を行っています。妊婦さん方はこの時間を楽しみにしてくれていて、紙に書いてきた質問をどんどん聞き、時間が終わってしまうこともあります。時には夫ののろけ話を、上のお子さんの育児について、お姑さんの有り余る助言につ

いてなど、よろず相談所みたいになることも有ります。誰にもいえず日々思い悩んでしまう妊婦さんにも私たち助産師は、一緒に悩み、ちょっとしたアイデアを出して、楽しく妊娠生活を送れるようお手伝いさせていただいています。何といても「お母さんが楽しいと、お腹の赤ちゃんも楽しい！」ということを知ってもらい、人生80年のうちのわずかな期間、妊娠ライフを



楽しく、そして自分の出産をポジティブ(前向き)にとらえ、その後の育児につなげていただきたいと願っています。

私たちは“妊婦さんの楽しいマタニティライフ”を応援します。

母子医療センター看護師長 前田 美佐子

第50回市民講座「大腸癌の内科的治療について」

最近20年間で大腸癌の死亡者数は2倍以上に増え、2015年までには、男女を合わせた日本人のがん罹患数の1位になると予想されております。



大腸癌の治療は、進行度により1.内視鏡による治療、2.手術、3.化学療法(抗癌剤による治療)に分けられます。今回は大腸癌の内科的治療について述べます。

大腸癌の診断は、便潜血検査、直腸指診、注腸造影検査、大腸内視鏡検査によってなされます。大腸癌の内視鏡的治療の適応となるのは、粘膜にとどまる癌や粘膜下層まで軽度浸潤した早期癌で、主に最大径2cm以下(施設により異なる)の病変に限られます。内視鏡にて病変部に注射を行い、病変部を隆起させます。その隆起した部分をスネアといわれる器具を用いて縛り、スネアに通電して病変部を焼き切ります。切除の状態により数日間の入院を要する場合があります。内視鏡的に切除不能な進行癌は外科手術の適応になりま

す。また外科的に治癒切除不能な遠隔転移を有するステージⅣ期の進行癌、もしくは再発例で切除不能の場合には化学療法が選択されます。大腸癌の化学療法は、近年新規抗癌剤の開発により奏効率は目覚しく向上し、平均生存期間も20ヶ月を越えるようになりました。投与法の改良や皮下埋め込み式リザーバー、バルーンポンプの普及により外来化学療法が可能となり、利便性も向上しました。キードラッグとなるのは5FU、オキサリプラチン、イリノテカンの3剤です。5FUとレボホリナート、オキサリプラチンによるFOLFOX療法と5FUとレボホリナート、イリノテカンによるFOLFIRI療法のいずれかを一次治療として行い、もう一方を二次治療として用います。さらに最近では分子標的治療薬として、ペバシズマブとセツキシマブがわが国でも承認され、これらの併用により30ヶ月以上の生存期間も報告されており、今後更なる発展が見込まれます。また一部抗癌剤において、治療効果や副作用の出現を事前に予測する事が可能となり、これにより患者様一人一人に合わせた治療、いわゆるオーダーメイド治療が可能となりつつあります。

消化器・血液内科医長 吉谷 元

— 第2回臨床研修医セミナーと青森県医師臨床研修病院合同説明会 —

2009年6月6日青森県臨床研修医セミナーと臨床研修指定病院の合同説明会が弘前学習センターにおいて行われました。

午前中のセミナー“case share conference”では8病院の研修医によりプレゼンテーションされた症例を医学生や研修医がグループで討論し、検査結果や画像を参考に診断をしてゆきます。最後にプレゼンテーションした研修医が種明かしをし、苦い教訓を語る仕掛けで終了すると言う、楽しいカンファレンスでした。当院から渡辺先生が「産科DIC」の症例のプレゼンテーションをし、司会をして下さった、指導医の小笠原先生とも息があって参加者は充分理解できたかと思えました。また各症例のコメントを福井県立病院救急救命センターの林寛之氏が研修医や学生向きに鑑別する場合の見落としのない方法の覚え方を教えてくださいました。

昼のランチセミナーは林氏による講演“ER爆

弾回避御法度”。学生、研修医にとっては楽しく学べる、1時間でした。

午後からの合同説明会には青森県12施設と函館市立病院、大館市立病院が参加しました。

当初学生の出足が少なく心配しましたが、結果的には当院のブースで説明を求める医学生は21名に及び、準備した資料は出尽くしてしまいました。当院のブースの展示が奥でしたので目立つように、真鍋先生が病院名を新たに印刷して下さり、急遽取り付けたのが効を奏したかと思えます。説明役に参加して下さった、山口先生、真鍋先生、小笠原先生、黒田先生お疲れさまでした。研修医が来てくれることを熱望しつつ帰途につきました。

小児科 医長 野村 由美子



外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (2009年7月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
総合診療外来		-	-	大串和久	-	-
循環器内科		人見博康	人見博康	人見博康	人見博康	人見博康
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器・血液内科		山口公平	週毎に交替で担当 ①吉谷/松木 ②松木/山口 ③山口/吉谷	山口公平	山口公平	-
		吉谷元		松木明彦	吉谷元	松木明彦
		佐藤年信		佐藤年信	-	佐藤年信
小児科		野村由美子	野村由美子	杉本和彦	野村由美子	野村由美子
		杉本和彦	佐藤工	八木弘子	佐藤工	杉本和彦
外科		田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹	横山昌樹	三上勝也
		三上勝也	三上勝也	田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹
整形外科	午前	柿崎寛	柿崎寛	秋元博之	秋元博之 又は 鈴木雅博	柿崎寛
		鈴木雅博	能見修也	鈴木雅博		木村由佳
	午後	-	-	-	-	柿崎寛
脳神経外科		-	-	木村正英	-	-
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
	午後	● 予約	● 手術	● 予約	● 手術	● 予約
泌尿器科		大和隆	大和隆	大和隆	大和隆	大和隆
産婦人科		真鍋麻美	片桐清一	真鍋麻美	● 妊婦検診 (一般外来休診)	片桐清一
		田中加奈子	小笠原智香	小笠原智香		田中加奈子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子	黒田令子	● 手術 (一般外来休診)	黒田令子	黒田令子
		二井一則	二井一則		-	二井一則
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	-	-	川口英夫 (午後)	-	-
麻酔科		● 手術	● 手術	● 手術	工藤明	● 手術
女性専用外科		杉本菜穂子 (※予約制/第1・第3火曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		-	-	-	今充	-

※ 学会、出張などにより担当医師が変わる場合があります。

【シリーズ】臨床検査のABC 細菌検査シリーズ④ 感受性試験

この感受性試験も同定検査と同様に16時間～18時間培養し純培養（一種類の細菌だけを取り出す作業）した菌を検査に使用します。

★感受性試験とは？

培養検査で検出した細菌がどの抗菌剤（抗生物質、合成抗菌薬）に効くか効かないかを検査することで、当院では微量液体希釈法（自動細菌検査装置ライサス）を使用しグラム陽性球菌/陰性桿菌の感受性試験を実施しています。また本装置で測定出来ない菌種（例えば嫌気性菌等）については必要に応じて用手法による微量液体希釈法（ドライプレート）にて感受性試験を行っています。検査に要する時間は菌種によって違うが16時間～48時間かかる場合もあります。（注



細菌検査の場合、他の検査と違って結果報告まで時間を要します。因みに塗抹・培養検査から感受性試験結果の最終報告まで流れを紹介すると以下のようになります。）

- 1日目：塗抹検査・培養検査
・・・16時間～20時間（嫌気性菌などは48時間）
- 2日目：同定検査・純培養
・・・16時間～20時間（嫌気性菌などは48時間）
- 3日目：同定検査・感受性試験
・・・16時間～24時間（嫌気性菌などは48時間）

※最終結果が報告できるのは早くても3日～4日を要します。

次回は抗酸菌について説明したいと思います!!

臨床検査技師長 高橋 俊英

☆「プルタブ寄付」風の子保育園 ☆

5月28日 風の子保育園では、弘前市の社会福祉協議会にプルタブ30キロを寄付し、「社会福祉事業のために有効に活用させていただきます。今後とも活動にご協力をお願いします」と、感謝状をいただきました。

今、地球温暖化ストップを目指し、エコ活動が注目されています。昨年、年中・年長組の体験学習として、弘前地区環境整備センターに行き、ゴミ収集車から運ばれてきたゴミを分別してリサイクル商品ができるまでの過程を見学しました。子どもたちは、ゴミ収集車の中を見たり、ペットボトルから洋服ができたたり、紙くずが新しいノートや段ボール箱になる事を知り、身近なリサイクルとして牛乳パックでしおり作りをしました。

体験学習を機に、エコ活動に関心を持ち、自然を守ろうとする気持ちを大切にすると共に、「自分達で今できることから始めよう」と、みんなで話し合い、プルタブ収集することを決めました。

園のオヤツの缶ジュースのプルタブから始まり、

おじいちゃん、おばあちゃん、親戚まで輪を広げ、声掛けして毎日のように2個・3個と持ってきて園のプルタブボックスがすぐ満杯になりました。



子どもたちの話し合いで活動を始めたプルタブ集めも1年間でダンボール箱3箱とびっくりするくらい集まり、自分たちの活動に意欲が持てるようになってきました。

子どもたちは院内散歩中に、入院者・通院者とあいさつを交わしたり、いつも車椅子を間近で見ているので、「プルタブをドラム缶にいっぱい集めて車椅子と交換しよう」と、少しでも社会福祉活動に協力でき、参加できることを喜んでいました。

今年度も子どもたちとプルタブ収集の活動を頑張っ

— 「花の日」礼拝 弘前聖愛学園 —



6月16日(火) 聖愛学園高校生2人が西1病棟を訪問し、入院患者さまに花束をプレゼントしました。

毎年恒例となったこの行事は、神様に感謝を捧げる「花の日礼拝」の日に学校での礼拝の後、病院や福祉施設を訪問して花束を贈っているもので、当院には午後4時30分に西1病棟で、3人の患者さんに「早く元気になっ

てくださいね」と声をかけながら花束を贈られました。いただいた花束は花瓶に生けられ、西1病棟で多くの方に見ていただきました。



心のこもった3つの花束は患者さまはもちろん、職員的心も癒されたました。聖愛学園の生徒さんありがとうございました。 管理課長 大類 靖

【今月の川柳】

★【川柳募集】 あなたの川柳をお待ちしています。

風の子の 描いたかあさん みな美人 (カマタ)

“トリ” じゃなく “ブタ” からきたか インフルエンザ (ふたご座)

掲載した作品は、広報誌編集委員会で選出したものです。

お知らせ

※毎月、第4水曜日地域医療研修センターにおいて、当院職員による市民講座を開催しております。参加は自由ですので、ぜひ参加下さい。

◆ 苦情・相談窓口

患者様やお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)や、院内6か所に設置している『ご意見箱』で対応しています。

なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院**
Hirosaki National Hospital
責任者 臨床研究部長 泉井 亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/hirosaki/>